

## 一般の部 優秀賞

(講評：加藤 徹 氏)



### 白川文字学を取り入れた 書道教育・制作・論考

埼玉県 埼玉県立春日部女子高等学校教諭  
深田 邦明 氏

#### 1 はじめに

私は大学時代に中村伸夫氏(筑波大学名誉教授・日展会員)から白川文字学を学んだ。篆書、特に金文の学習における字源調べの意義は、字形・点画の本来の意味を理解し、筆で書く際の留意点を自ら知ることである。例えば、「立」は『字統』に「大と一とに従う。一はその立つところの位置を示す。」とあるから金文の「立」の下の横画は真つすぐに水平に書くべきと分かる。

#### 2 実践の内容

##### (1) 高等学校における字源調べを取り入れた書道の授業について

私は授業では専門書である『字統』で字源を調べ、生徒に説明してきたが、生徒にとっては受け身の感があった。「生徒自ら字源を調べる主体的な学習」を可能にしたのが生徒向けの『常用字解』(2003年)と『人名字解』(2006年)である。私はこれらによる字源調べを書道教育にいち早く取り入れ、2008～10年度に埼玉県立越谷西高等学校において授業研究を行い、2009、2011年の全日本高等学校書道教育



研究会で発表した。高等学校の書道教育において、「生徒が字源を調べることで篆書の字形・点画の意味を理解でき、臨書・創作の際に字形・点画の面で正しく書け、意欲的に取り組める」ことを実証したことは大きな成果と言える。

##### (2) 字源調べを取り入れた自らの書作品制作や書道論考について

私自身の制作でも常に『字統』で字源を調べ、字形・点画に誤りがなく、かつ創意工夫した書作品を心掛け、日展(2022年まで入選8回)等の大規模展覧会で発表してきた。書道史研究では、昭和の大家、西川寧による金文を素材とした書作品について、白川の字源、金文の釈字・訓読・書風を取り入れ研究し、書道専門誌『墨』に発表した(「西川寧による金文を素材とした書作品について」2011年、第3回「墨」評論賞準大賞受賞、「筑波大学蔵西川寧臨庚嬴貞銘について」2011年)。



#### 3 おわりに

白川文字学を国語の漢字教育で取り入れた例は多い。しかし、私は、白川文字学を書道教育・制作・論考の多方面においてこれだけ生かした例はこれまでにないと思信している。現在は、「白川文字学を取り入れた書道の書体の学習」について考えている。

**講評** 高校における書道教育で白川文字学を活用した実践である。生徒の学習意欲を醸成し、白川文字学を活用する面白さを体験させるという工夫は見事であり、その結果生まれた作品もすばらしい。その成果は全国レベルの教育研究会において発表され、広く共有された。継続性、汎用性、白川文字学の普及への貢献度など、どれをとっても優秀な実践である。

## 一般の部 特別奨励賞

(講評：加藤 徹 氏)



### 『日中2か国語詩吟』の実践

福井県 永平寺親禅の宿 柏樹閣  
禅コンシェルジュ  
杉本 紀幸 氏



漢詩は、漢字文化の一つとして親しまれてきたが、学校教育・詩吟・漢詩創作等で、平仄や押韻等の漢詩の規則は知識として実際に感じ取れないものとされている。また、漢詩吟詠では、漢字音直読も愛好されてきたが、日清戦争以降、敵性文化と退けられた一方、漢文訓読で悲歌慷慨し愛国主義に訴えるものが多い詩吟は文化芸術活動として生き残っている。平仄や押韻を新しい吟詠で表現したい。直読吟詠に存在した悲歌慷慨型だけでなく吟詠を認知させたい。こうした思いで、『日中2か国語詩吟』の作品をWeb上に発表してきた。

音声面の旋律は詩の内容と漢字の声調に沿った中国の伝承吟詠のものを主とし、その旋律にあう伴奏をつける。構成は、その旋律による中国語および日本語漢字音での吟詠と、その伴奏上での漢文訓読歌詞での歌唱としてきた。現代中国歌曲は声調無視の音楽優先であるが、伝承音楽等では各漢字の声調に沿った旋律で歌われてきた。中国語吟詠と同じ旋律で中国語中古音を留め入声字を識別できる日本語漢字音による吟詠を行うことで、日本詩吟では感じ得ない平仄配置が生み出すリズムと旋律のおもしろみを体感できる。逆に、入声音が消失した現代中国吟詠教育では、入声字の歌い方を「短く急に止める」と指導しているが、更に強調して喉内入声字韻尾にはk、舌内入声字韻尾にはt、唇内入声字韻尾にはpを加えて歌うことで、現代中国語でも入声音を体感できる。

映像面では、平仄・入声・押韻等を色分けした歌詞表示や現代中国語の声調の動きにあわせた旋律となっていることを示す五線譜等によって、音声面での体感を補助している。

**講評** インターネットという現代的な媒体を活用し、中国語の声調をメロディーに活かした詩吟を採譜・編曲して日中両国語で歌う、という画期的かつ国際的なコンセプトの実践である。狭義の「漢字教育」からはやはりはずれるかもしれないが、「漢字文化の普及」の観点から特別奨励賞をさしあげたい。



### YouTube 漢字教室

—学校に行けなくても学べる環境を—

東京都 会社員  
植木 ゆりこ 氏



さまざまな理由で学校で学ぶことができない子供達がいる。そして、ウイルスが出現し突然学校が休みになることもある。学習意欲はあるが「学校に行けない」「学校に行きたくない」子供達はどのようにして学べばよいのだろうか。「学校に行かなくても」学べる環境を用意しておかなくてはならない時代になっている。

2年半前、コロナで自宅待機中の新小学1年生向けにYouTube配信を始め、これまでに115本配信した。学校や学習塾から配信された低学年向けの動画もあったが、どれも真面目一辺倒で笑顔がなく、硬いものだった。

私は気軽に視聴できて、元気で笑顔と学びの「きっかけ」を子供達に届ける内容と構成を目指した。①子ども向けオリジナルキャラクターの登場 ②1動画1漢字 ③1動画5～10分 ④1～2週間に1動画のアップ ⑤オリジナル漢字カードを用いた成り立ちの説明 ⑥複数の成り立ちの紹介 ⑦低学年向けに顔出し ⑧笑顔で話しかける、などを工夫した。

「YouTuber?!」と揶揄されることもあったが、私は「学校に行けない」子供達のためのボランティアの漢字教育活動に、子供達が親しみやすいツールとしてYouTubeを採用したに過ぎない。

登録者は現在4～5クラス分の170名となった。学校に行けなくても学習意欲を持続させられる「次のツールはなんだろう?」と日々試行錯誤している。



**講評** それぞれの動画は、視聴者である子どもたちや保護者に配慮し、きめ細かく作り込まれている。コロナ収束後も、世の中で授業や講座のオンライン化の動きは止まることはないと考えられる。今後、更にどのような進展を見せてくれるか、期待したい。